

## 日本語の二重否定の分類

### ——非形式的二重否定分類への試論——

大堀 裕美（創価大学大学院 博士後期課程）

#### 要 旨

従来は二重否定への分類が定まっていなかった非形式的二重否定も加えた、新たな二重否定の分類を試みる。一見して外観は二重否定とは分かりにくい、しかし論理的には二重否定と等価であり、肯定の極性を持っている語形式を、本稿では非形式的二重否定とする。形式的二重否定表現に加え、非形式的二重否定も二重否定の分類に加える。

キーワード：二重否定、肯定の極性、非形式的二重否定、分類、

#### 1. はじめに

日本語の二重否定は表現は、じつに多種多様である。「～ないでもない」「～ないこともない」などの表現は言うまでもなく、その形式の多様性と類似性から、日本語を学ぶ外国人にとってもその意味を理解し、その表現を駆使できるようになるまでは多くの時間を費やすと日本語を学ぶ友人に聞いたことがある。例えば「知らないわけはない＝必ず知っている」と「知らないわけじゃ(では)ない＝多少知っていることもある」では、形式的には「は」と「では」の違いだけであるにもかかわらず、意味は一方は強い肯定、もう一方は弱い肯定になるのである。この形式の類似、意味の差異性も二重否定表現の理解・習得を困難にしている一つの要素であることは間違いない。では、他に二重否定を分かりにくくしている要素とは何であろうか。その一つに「何を二重否定とするか」という分類の問題がある。二重否定と一口に言っても、形式的だけ着目して、意味はすべて等価なものであると判別できるのであろうか。この答えは否である。単純に一つの文に否定辞二つ持っていれば、それらがすべて肯定の意味を表す二重否定かというそうではないからだ。例えば次のような文はどうか。

(1) ないとはいったらない。

(2) そんなことたいしたことないじゃないの？(原口(1982:72))

(1)は否定の繰り返しで、否定の「強調」の意味になる。(2)は「たいしたことない」という否定の意味を表す。これは原口(1982)の言葉を借りれば、「否定に否定」であり、「反復否定」＝否定を並べただけのものや、「反語的疑問」として、否定から肯定への極性反転が生じる二重否定とは別物であるとして、区別している。本稿でも、このように二重否定によって極性が肯定に反転しないものは、分類に含まないという立場をとる。では、形式上二重否定で、意味の肯定への極性反転が見られれば二重否定である、という括りで十分であろうか。それも答えは否である。次のような文はどうであろうか。

(3) 本法案は男女差別を一層助長するものであると言っても過言ではないのであります。

(国会会議録(1984))

(3)は、形式的には一見して二重否定の様式は呈していないが、「過言」という否定的意味を含む語を「ない」で否定し、意味的には二重否定である。さらにその意味極性は肯定へと反転している。つまり日本語では、形式的には二重否定の様式を呈していないものでも、文の意味極性が肯定に反転している二重否定は存在しているということになる。しかし、管見によれば二重否定をそのような枠組みで分類

しているものは見たことがない。

そこで本稿は、日本語の二重否定の先行研究を整理した上で、従来は二重否定に分類するかどうか見解が分かれていた非形式的二重否定をも加えた、新たな二重否定分類を試みる。非形式的二重否定とは、外観は一見して二重否定とは分かりにくい、論理的には二重否定の構造を持ち、極性を肯定へと反転させる語形式の総称である。従来の日本語の二重否定表現は、多方面にわたって多角的に分類されてきたが、ここではひとまずそれらをまとめ、先行研究の問題点を整理しておきたい。その上で非形式的二重否定を含む分類の試論を展開したい。

## 2. 日本語の二重否定の先行研究概観

二重否定表現というのは、どのような表現を指すのか。辞書による概説的な説明も一口に二重否定と言っても、その定義は一様ではない。しかしその定義が定まらない限り、二重否定の研究成果は散在し、その研究成果を言語学研究、日本語教育において十分に享受することは難しいと考える。そこで、本節では二重否定の辞書類における説明、また形態論、意味論における先行研究を概観し、その問題点をまとめた上で、最後に二重否定の定義を示す。

### 2.1. 国語辞書類における二重否定の説明

まず、国語辞典類における二重否定の説明を概観する。『日本国語大辞典』には、「否定したものをも一度否定することで、肯定を表す。論理学では肯定と全く同じだが、一般には何らかの情緒的意味を含む。」(p. 442) 『明鏡国語辞典』には、「否定の言葉を二つ重ねること。また、その言語表現。(中略)単なる肯定に比べると強意・婉曲などの含意が付加されることが多い。」(p. 1323)とある。これらの説明をみる限り、意味が肯定であることはまず共通していることが分かる。しかし「否定」「否定の言葉」が何を指しているか、具体的には述べられていない。筆者は何を「否定」と捉えるかも定義に加える必要があると考える。

### 2.2. 日本語文法書における二重否定の説明

次に、主たる日本語文法書の二重否定の意味についての記述を概観する。『日本文法大辞典』には、「「～ないでもない」の「～でもない」は、肯定判断「～である」に対する否定形「～でない」に、強意助詞「も」が挿入されたものであると分析され、それはたいてい用言に付く」とある。『日本語文型表現辞典』には、「～ないでもない」について「動詞の否定形や形容詞「ない」を受けて、そのようなことが全くないわけではなく、それが存在したり成立したりすることもあるという意味を表す。「…ないこともない」「…なくもない」とも言う。動詞の否定形を受け、そのような行為、認識が成立することもあるという意味を表す。「言う、考える、思う、認める、感じる、気がする」など思考や知覚にかかわる動詞が用いられた場合は、「何となくそんな気がする」といった意味を表す。」とある。また『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』では、「「～ないでもない」は意志、無意志動詞どちらにも使える二重否定、「～ない」を否定し、「～」に近い意味を表すが、「～」とは違う」と説明している。日本語記述文法研究会(2003)には、「～ざるを得ない」「～ないわけにはいかない」「～ないではいけない」が取り上げられており、その事態の実現が不可避なもの、必然的なものとして意味・用法が分析されている。日本語記述文法研究会(2007)には二重否定の基本的な形と機能が分析されており、「～ないで{は/も}ない」「～ないわけで{は/も}ない」のような形において{も}にはぼかしの機能があり、意味用法が違

うことが挙げられている。これらから言えることは、二重否定の意味は、国語辞典類にあるように肯定の意味であることは共通している。しかし、その意味の強弱については両方が存在し、その使い分けは複雑であることもわかる。そして、これらの意味・用法の記述はいわゆる形式的二重否定の意味・用法についての言及のみであり、上述の(3)のような文は二重否定としては取り扱われていないことがわかった。

### 2.3. 日本語の二重否定の形態論的、意味論的な研究

次に先行研究における形態論的、意味論的な研究を見ていく。二重否定の記述的研究において、例文を挙げ詳細に検証しているものに原口(同)がある。原口によれば、二重否定には肯定と否定の極性をもつものがあり、「わかりにくさの度合いが増すのは、(極性が)反転する否定の場合に限られる」としている。( )内は、筆者が付加した。) また、原口(同)は二重否定により肯定が強まるものは無標(＝普通のこと)であり、弱まるものは有標だという立場で論を進めているが、例えば肯定が強まるものに次のような例をあげている。

(4) 目を見張らざるを得ない。(原口 1982:82)

(4)の意味は「どうしても目を見張ってしまう」ということであるが、この意味が肯定の強めだということに誰も異論はないであろう。原口(同)は二重否定においては意味を弱める場合を求めて研究することの必要性を主張している。陶(1991)では、日本語の二重否定を定義している。それによれば、二重否定は「一つの述語表現において否定を表すものが重なり、後ろの否定が前の否定を制限し、文の意味も肯定であること」とある。この定義に異論はない。しかし陶(同)は、「ちがいない」について、「ちがいない」の「ない」は否定の意味が薄くなり、むしろ他の意味に変化しているのではなはいか」とし、これを「否定の転義」として「かもしれない」と同じカテゴリで括り、二重否定とはみなしていない。

(5) きつと時間通りに来なかったに違いない。(陶(1994:81))

(5)の「違いない」は命題を強く肯定している。ここには二重否定の構造が隠れている。「違いない」は「違う」という否定的語彙と否定辞「ない」が一つになった意味的には二重否定表現だと考えられる。つまり原口(1982)でいうところの、「二重否定で肯定が強まるもの」と理論上は同じになる。これは本稿で後述する「非形式的二重否定表現」に属すると考えられる。これについては詳しく後述する。

また陶(1994)は日本語の二重否定を 15 種類に区分し、各形式ごとに整理し、意味分析している。その中で「～ざるをえない」などの表現は、普通の肯定とは等価ではなく、「やむをえずそうする」という意味を表すと指摘している。陶によれば、「ないわけにはいかない」などの二重否定表現は「強い語気の肯定」であり、「ないこともない」のような二重否定表現は「婉曲の是認」として区別している。同じように形式的側面から分類した林(2005)がある。近現代 4 小説から 1000 例余の形式を 8 つに類型化し<sup>(1)</sup>、形式と意味の相関関係について整理、分析した。その中で、二重否定の意味は肯定か否定かの表現が「基盤的意味」であり、話者の気持ちは「強調」「曖昧」「婉曲」などの「副次的意味」とであると結論している。その中でも「副次的な意味」の内容が豊富で、特に「強調」「曖昧」な意味が多いと述べている。しかし林(同)の 8 分類は、形式の観点から分類されており、二重否定が「基盤的」には肯定の意味を持っていることを証明することに貢献したが、「副次的な意味」の整理、判断は林自身によっており、意味・用法を整理するまでには至っていないという問題が残っている。二重否定の具体的な用例、意味用法の研究に渡邊(2007・2008)がある。「ないことはない」のような語に限定的ではあるが、連結部の「ことは」「ことも」に注目し、原口(同)の研究手法を援用し、「～ないこともない」の「こと」の指示内容が具体

的か抽象的かによって、意味が肯定の強め、弱めの二種類になる<sup>(2)</sup>ことや、江戸時代まで遡って、「～ないことはない」がもともとは強調の意味で使われていたものが、明治になると肯定の弱めに変化しているという通時的な分析を行っている。

さらに、二重否定の動詞の結合関係を分析した印(1995)には、二重否定表現は無意志動詞と共に起しにくい反面、動作を表す有意志動詞と共に起すとしている。「負ける、すぎる、しくじる」などそれ自体で否定の意味合いを持つ動詞には二重否定が付きにくいとの指摘もある。実際の二重否定の使用実態を調査・報告したものに野田(2000-2002)がある。調査の結果、話し言葉には二重否定が極端に少なかったとし、新聞、シナリオ、小説等の文字資料から用いられやすい形式間の異同を把握した結果を報告している。二重否定形式は可能表現や存在表現に多く用いられること、「～ないではない」型は思考や感情に関わる内容に用いられやすいこと、「～なくはない」「～ないではない」型には「も」が含まれることが多いことを挙げ、とりたて助詞「も」の、とりたてる語について成立することが、その語と並ぶような他の事物についても成立することを表す性質が、断言を避けたりする二重否定の性質によく合うのだと分析している。ただし野田(同)は、次のようなものを二重否定とはみなしていない。

(6) 行か {なければならない／なくてははいけない／ざるをえない}

(6)のように否定を2つ含む形で固定化し、全体として否定的内容を表しているとは言い難いものは対象外という説明をしている。筆者はこれについては異論があり、詳細は次節で後述する。

#### 2.4. 二重否定の先行研究の問題点

上述したような先行研究にはいくつかの問題点がある。まず、原口(同)、陶(同)が「目を見張らざるを得ない」のような表現を二重否定としているのに対し、野田(同)は二重否定とはみなしていない。筆者は前述したように、「～ざるを得ない」は「どうしても目を見張ってしまう」という肯定の強めであり、構造的、論理的にも二重否定であると考える。

次に二重否定の意味に関する用語であるが、原口(同)は「肯定の強め・弱め」、陶(同)は「強い語気の肯定」「婉曲の是認」、林(同)は「強調」「曖昧」「婉曲」のようにばらばらである。したがって次章であらためて二重否定の用語を定義し直して、整理することにする。この章のまとめとして二重否定表現を以下のように定義する<sup>(3)</sup>。

- 1) 二つの否定は連続的で、一つの述語表現に限られること。
- 2) 文全体の意味極性は肯定であること。
- 3) 一つの文に二つの否定辞または、一つの否定辞と否定的語彙を含むものであること。
- 4) 肯定の意味内容は弱いもの、強いものがあること。

#### 3. 二重否定表現の分類

前節でみてきたように、二重否定の意味に関する用語には統一性に欠ける部分がある。しかし分類し、その意味からカテゴリー分けを行うとなると、用語には定義が必要になる。本稿では、まず形式的に一見して二重否定と分かるものを形式的二重否定とし、一見してすぐには二重否定と分からないような、しかし論理的には二重否定と等価の形式を非形式的二重否定とする。その下位分類はそれぞれ、意味が肯定の強めと弱めの二つに分かれる。巻末の資料1を参照。

### 3. 1. 形式的二重否定

いわゆる一見してすぐに二重否定と分かる形式の総称。一つの動詞に対して否定辞が二つある。その意味は、論理的には肯定と等価だが肯定の意味を弱める「婉曲的二重否定」と、「必ず」「どうしても」などの必然の意味や「～ないものはない」などの無例外性を表す「断定的二重否定」に分けられる。

#### 3. 1. 1. 婉曲的二重否定

形式的二重否定で、意味が肯定の弱めになる。意味的には回りくどいが、形式的、語彙的には直接的である。発話機能の《主張》の緩和、消極的《賛同》などの機能がある。

##### ①～ないでも(は)ない

黄門：妻を亡くして、酒に溺れるおぬしのその心、分からないでもないが、娘さんの気持ちに  
そろそろ応えてもいいのでは。(ドラマ『水戸黄門』)

相手がコマをおいた瞬間に黙ってパイと立って出て行くというのはあまり見かけないようだ。  
コマをおいた相手は小バカにされたような気がしないでもない。事実、津雲はいくらか気をわ  
るくしたのであった。(『桂馬の幻想』坂口安吾)

##### ②～なくも(は)ない<sup>(4)</sup>

アナウンサー：(離婚問題で)最近では夫が子供をつれて行くケースは増えているんですか。

弁護士：最近ではそういったケースが増えていると言えなくはないと思います。(NHK『朝イチ』)

##### ③～ないことも(は)ない<sup>(5)</sup>

A：「バースデー」だって。何のお店だろう？

B：保育所ってことはないか？

B：あつ、この辺(新興住宅街)だから、ないこともないかも。(近所の友人の会話)

##### ④～ないわけでは(じゃ)ない

その腕の中で眠りたい、子供みたいに。ふと願う日がないわけじゃない。

(「Love story」安室奈美恵)

##### ⑤～なきにしもあらず→「～ないわけでは(じゃ)ない」の文語的表現

(プチプラなどという言葉は)激安などちがって、少しだけお得感があるということがあり、そ  
れを誰かと共有したいという気持ちがなきにしもあらずですね。(NHK 朝のニュース)

##### ⑥～しないものではない

1982 年、アメリカの科学アカデミーは「がんは税金みたいに逃れられないものではない」と  
いうタイトルで、「がんは、ビタミン A、C、E をしっかり摂れば、確実に防げる」ことを示し  
… (『「前兆」に気づけば病気は自分で治せる』石原結實)

##### ⑦～ないとは(言えない／考えられない／思えない／言い切れない)

もう一度、「お金にや勝てんもん」という言葉を日本人が、ぽつんとつぶやくような時代がこな  
いとは言えないと思います。そういう時期に私たちは、それでも生き残って、生きのびていかな  
ければならない。(『人生の目的』五木寛之)

#### 3. 1. 2. 断定的二重否定

形式的二重否定で、意味が肯定の強めになる。強めというのを具体的に説明するために、寺門(2001)の必然性の二重否定と無例外性二重否定の論理を援用したい。寺門(同)によれば、必然性の二重否定には「必ず、どうしても(…が必要がある)、絶対に」などという必然性を表現しているものが相当し、例外なしの二重否定には、「～しないものはない」という意味を表しているものが相当する。寺門のこれら

二つの二重否定を含めて、本稿では断定的二重否定と称する。

⑧～ないわけがない

こんな経験をさせてもらって、この町（シアトル）が好きにならないわけがない。（イチロー2000  
本安打記念インタビュー2004）

⑨～ないはずがない

人類史上でも画期的というべきこの変化が、人々の思考や行動に、さまざまな影響を与えないはずがない。（『ゆとりとはなにか』飯田経夫）

⑩～を(と)V(せ)ざるを得ない→「～なければならない」の文語的表現

荒川区中学校校長：(いじめがあったことを認めた上で)具体的な指導のあり方を反省せざるを得ない。（ニュース23）

⑪～ないわけにはいかない<sup>(6)</sup>

最後は計算、気配りとは正反対のような壮大、壮絶な戦いを挑んで砕け散ったのがなんとも人間的で、魅力を感じないわけにはいかない。おそらく、三成を最も必要としていた人物は家康で…。(『日本を創った戦略集団』三浦朱門)

⑫～なし(い)ではいられない

「気持ちを、すっかり整理したわ。そして、あなたと遠く離れたときの自分の心の中を、はっきりと確かめたの。やっぱり、わたしっていう女は、あなたなしでは生きられないってわかったのよ」(『見えない宝石』笹沢左保)

⑬～ない(N)は(い)ない

例外のない規則はない。

### 3.2. 非形式的二重否定

一見して二重否定とは分かりにくいですが、論理的には二重否定と等価の意味をもつもの。構造上は、一つの否定辞と一つの否定的語彙(動詞を含む)とが融合した形式。

#### 3.2.1. 迂言的二重否定

非形式的二重否定の中で、意味的にも、形式的にも、語彙的にも回りくどい二重否定の総称。一見して二重否定とはわからないが、非形式的二重否定の定義に沿って、成句的表現形式を持っている。意味は消極的肯定であり、《主張》《賛同》《反論》の発話機能がある。

①～といっても過言ではない

ファッションスタイリスト：今やおしゃれな人はみんな履いているといっても過言ではない靴下です。（LEE web サイト記述より）

②～ないといったら嘘になる

垣岩令佳選手：(オリンピック準決勝進出を決めて)メダルを意識しないといったら嘘になるけど、次も全力で戦いたい。（NHK ニュース）

③～しかねない<sup>(7)</sup>

菅首相と玄葉国家戦略担当相が、昨年衆院選マニフェストに対する認識で食い違いを見せ閣内不一致を問われかねない。（読売新聞）

④～は差し支えない

さて、元に話を戻すと、美術・博物館の大多数は公私の公益法人と考えて差し支えない。公的な

ものの代表例は、世田谷美術館である。（『美術経済白書』瀬木慎一）

⑤～偽らざるN(だ)

しかし現在、この畳をあっさり捨て去った住居づくりが大半です。「もったいない！」が私の偽らざる心境です。（『本物の家は「こだわり」がつくる』中村昌平）

⑥～を免れない

このままだと、必ず視力低下は免れないと思いますよ。早期に病院での診断などをオススメ致します。（Yahoo!知恵袋 健康、美容とファッションへの書き込み 2005）

⑦～は避けられない

これを撤回するにあたっては、消費税問題に六月までに決着をつけることが前提となっており、再び衝突は避けられない。ならば、早めに勝負して（辞任して）、連立の組み替えをしたほうがよいと考えたのである（『連立政権』草野厚）

⑧～は否定できない

弁護士：検察が虚偽の調査書を作成したことは、（小沢被告の）裁判にある程度影響を与えたことは否定できない。（NHK ニュース）

⑨～は否めない

国会事故調査委員：（東電は現場より）官邸の指示を優先させてしまったことが、混乱の原因であることは否めない。（ニュースステーション）

### 3.2.2. 強調的二重否定

非形式的二重否定の定義に沿って成立しており、一語の固まりとしてのまとまりが強い。このような語の総称を強調的二重否定とする。意味は積極的肯定の度合いが強くなる。

⑩～に他ならない

（ダウンタウンの）二人がここまでのぼりつめることができたのは、NSCを設立した主旨、この学校の生徒は漫才や落語など、既成の笑いをやってはいけない。我々は新しい世界を切り拓くタレントを育てるのだ」という「既成のお笑いの否定」…この厳しい訓示を、頑に守ってきたからに他ならない。（『ダウンタウン浜ちゃん松ちゃんごっつええ話』大阪ダウンタウン研究会）

⑪～(の)ほかはない

自分の口を封じる方法はただひとつ。自ら命を断つほかはない。しかし、下田には、自分で自分の命を断てる自信もなかった。（『野望戦略』豊田行二）

⑫～にちがいない

このように、若い世代ほど負担が重くなるとすれば、さまざまな制度やシステムは持続可能性を失って、早晚行き詰まってしまうにちがいない。（毎日新聞）

⑬～は(で)間違いない

「あそこ。ほら、あの映画館の向こうの角。ああ、見えなくなっちゃったあ！とっても背の高い人だった。それに少し猫背なところは、あれは曾根画伯よ。絶対にまちがいないわ！」  
「曾根さんが？まさか…。あの画伯がこの昼日中にこんな所へ来るわけがないよ」（『ヴェルレーヌ詩集殺人事件』新谷謙）

⑭～以外にない

七%の経済成長をもし求めるとするならば、大臣がおっしゃったように、どうしたって国内の消費の拡大ですよ。同時に公共事業の拡大です。これ以外にないのです。恐らくこの推定は私どもと

大臣ともそう変わらないと思うのです。(国会会議録 第084回国会 1978)

⑮～を怠らない

日々健康で幸せに生かされていることを感謝し、有難う、と手を合わせるのを怠らない。この年まで生きてくると、異なった環境を受け入れるのは面倒くさいし落ち着かないので…(『日の暮れぬうち』木村梢)

⑯～に(は)欠かせない

「おいしい食べ物」これだけはどんな時でも絶対欠かせない。旦那さんは仕事の合間にインターネットで資料を集めてリサーチ。(『スター・ストラック』野宮真貴)

⑰～をはばからない

高名な作家たちも、孫に目がなく、「趣味は孫です」といってはばからない。(『女60代輝いて生きる』下重暁子)

⑱～を禁じ得ない<sup>(8)</sup>

つい、ここまで書いてしまったものの、思えばどうしてこんなことになったのかと、戸惑いを禁じ得ません。(『聞く力』阿川佐和子)

⑲～を厭わない

和田一夫氏の経営の真髓は、「私」をなくせば、大きな望みがかなえられるという「無私大望」にある。彼はもともと「無私」すなわちゼロになることを厭わない。熱海市の大火災を経験しているからだ。(『実践・経営革命』片山修)

#### 4. まとめ

本稿では、従来の二重否定の定義、先行研究を踏まえてその問題点を指摘した。筆者は迂言的二重否定表現のような表現も、二重否定表現に分類するとの立場であり、日本語の二重否定表現の多くは、発話機能の《主張》断定緩和機能を持っていることから、話者の発話意図を考慮した発話機能区分から、二重否定のもつ意味そのものを捉えていくことが重要であると考えた。従来の先行研究の多くが、二重否定の意味を強調と婉曲的肯定の二種類であるとしているが、筆者が指摘した迂言的二重否定のような表現には言及されておらず、迂言的二重否定のような表現こそ、外国語には翻訳することができない日本人の心の屈折<sup>(9)</sup>を表現するのに好ましい、コミュニケーション場面に欠かせない機能的役割があることも今後の研究で明らかにしていきたい。

#### 注

- (1) 林(2005)では、「駄目だ、無理だ、手遅れだ、下手だ、間違いだ、嫌いだ」なども二重否定に用いられる否定辞として数えている。
- (2) 渡邊(2008)は「ないことはない」の意味を、原口(同)の研究手法を援用し、「～ないことはない」の「こと」の指示内容が具体的であれば肯定の強め、抽象的であれば肯定の弱めの二種類になるとしている。本稿でもそれに従い、巻末の資料1では「＊」をつけて「婉曲的」「断定的」の二種の意味を表すこととする。
- (3) 本稿に記した二重否定の定義は、陶(1991)を参考にした。
- (4) 田中(2007)に、「言えなくもない」は、婉曲に断定を主張する言い方とある。「言えないこともない」に近いとしている。
- (5) 田中(2004c)は、「～ないことはない」の「は」のかわりに「も」を使えば、より迂言的な可能性の判断保



留となると指摘した上で、「～ないこともない」は、一旦認めたことへの判断保留の言い方としている。

そうした歴史を紡いできた人の世の作り出す五輪もまた美しいだけのものではありません。政治や金にもまれてきた。もう、戻れないかとも思うが、全くできないこともないだろう。(朝日新聞 04. 4. 6 田中)

(6) 田中(2007)では、「～わけにはいかない」について、一種の内発的表出を表し、宣言ないし、主張としての伝達を意図するものであるとしている。

(7) 「～かねない」は既に「かねる」の動詞本来の意味は消失している。「～しかねる」はそうするとが困難、不可能だと否定的意味。例)承服しかねる 「～しかねない」は無意志動詞に付いてとりわけ実現して欲しくない蓋然性を表す。例)破綻しかねない

田中(同)に、「～かねない」は憂慮の表出とし、語形は否定でありながら肯定の意味を表すが内実は「～かねる」の不可能な意味を打ち消した二重否定であるとの記述がある。「～しないとはいえない」などのように可能性、蓋然性を表す言い方で、一種の警告表現、注意喚起としての機能があるとしている。

(8) 「～禁じ得ない」は既に「禁じる」の動詞本来の意味は消失している。話者に起こったある特定の感情、心情を露にできないが、隠せないという意味。

(9) 森田(1995)は、二重否定の心理について「日本人の心の屈折と、肯定で言う端的な表現を嫌って(略)あいまいにぼかす遠回しな婉曲法」と言っている。

## 参考文献

- 庵功雄ほか(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 井上義昌(1971)『詳解英文法辞典』開拓社
- 印省熙(1995)「日本語の二重否定表現について」『言語と日本語教育』第11号 96-99
- 大堀裕美(2012)『主張における迂言的二重否定にみられる配慮表現の研究』日本語教育国際研究大会ポスター発表資料および論文(未公開)
- 北原保雄(2002)『明鏡国語辞典』大修館書店
- グループ・ジャマシイ編著(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
- 田中寛(2004)「否定文末の形式の意味と機能」『講座 日本語教育』第40分冊 早稲田大学日本語研究教育センター
- \_\_\_\_\_(2007)「否定文末表現における判断の諸相-否定の論理構造と倫理的な意味-」『外国語学研究』第8号 大東文化大学大学院外国語学研究科
- 寺門伸(2001)「二重否定」について『獨協医科大学教養医学科紀要』獨協医科大学教養医学科
- 陶振孝(1991)「日本語の二重否定について」『日本語学』vol.10 No.6 明治書院
- \_\_\_\_\_(1994)「日本語の二重否定の構造」『日本学研究論集』北京外国語大学日語系
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子(2007)『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』アルク
- 日本国語大辞典編集委員会(1972)『日本国語大辞典』第十巻 小学館
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4』第8部モダリティ くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(2007)『現代日本語文法3』第7部肯否 くろしお出版
- 野内良三(2002)『レトリック入門 修辞と論証』世界思想社
- 野田春美(2000-2002)「二重否定の形式」『現代日本語の文法的バリエーションに関する基礎的研究』神戸学院大学 文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書
- 原口庄輔(1982)『ことばの文化』こびあん書房

松村明編 (1971) 『日本文法大辞典』 明治書院

森田良行 (1995) 『日本語の視点 ことばを創る日本人の発想』 創拓社

山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現日本語語用論入門』 明治書院

林常楽 (2005) 「二重否定表現の一考察-形式と意味の相関関係を中心に-」 『人間文化研究』 第3号 長崎純心大学

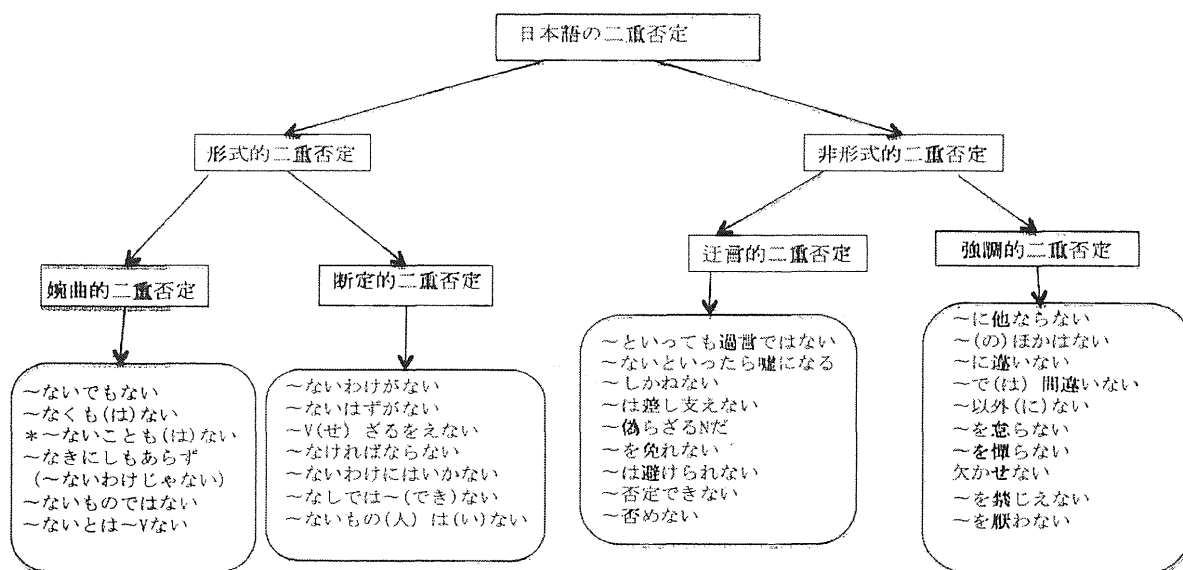
渡邊美弥 (2007) 「二重否定表現の意味の強弱に関わる要素について-芥川龍之介作品を対象として-」 『広島女学院大学大学院言語文化論叢』 10巻

\_\_\_\_\_ (2008) 「連結部分に「こと」を含む二重否定表現の意味変化について-江戸時代から昭和初期を中心に-」 『広島女学院大学大学院言語文化論叢』 11巻

## 引用例出典

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」 国立国語研究所(編) 2009. BCCWJ モニター公開データ

## 資料1 日本語の二重否定の分類



(大堀裕美、創価大学大学院博士後期課程、e09d1303@soka.ac.jp)